

健全な生活環境をめざして ～ アメリカの喫煙率低下にみる青少年問題解決の方向性 ～

広島市立宇品中学校

森 信 吉

山口県豊田町立豊田西中学校

斎 藤 敦 津

山口県立西京高等学校

栗 林 正 和

1. 教材作成の意図について

この教材は、日本とアメリカの青少年問題を比較し、類似点と相違点を明らかにすることで、また、とくにお互いの良いところを理解することで、自らの生活を改善していくために開発したものです。

実際に、両国がさまざまな青少年問題を抱えていることは事実です。しかし、どちらとも手をこまねいて、見ているわけではありません。いろいろ角度からの努力がなされ、成果が徐々に現れ始めていることもあります。

今回は、喫煙の問題を中心に置きました。アメリカでは次第に喫煙率が下がっているのに対し、日本の学校現場では依然として大きな問題です。基本的には個人の問題とはいえ、同じことに対しても、それぞれ考え方も対応も両国では異なります。アメリカの人々がいかにして青少年の喫煙問題の解決に取り組んでいるか、その努力の足跡を探り、応用することができるよう、おおいに参考にしたいものです。

2. 教材の活用について

この教材は、中学校・高等学校の社会科、保健体育科、英語科および特別活動などに活用できる内容です。数時間の教材として扱えるようになっていますので、高等学校のロング・ホームルームの時間にはそのまま活用することも可能です。ワークシートへの書き込みをしながら、書いたことを発表させたり、話し合せたりすることができます。この題材をもとに、ロールプレいやディベートの手法を取り入れられれば、さらに効果的です。

さらに数時間の余裕があるならば、別のテーマに発展させていくこともおおいに可能です。とくに、アメリカの青少年をとりまく象徴的な社会問題を念頭に置けば、次のような項目を例として取り上げられるでしょう。

- ◎ ドラッグとセックス ～ アメリカの青少年の象徴的問題
- ◎ 銃社会、離婚問題 ～ 青少年問題の一つのファクター
- ◎ メンタルヘルス ～ 病める国アメリカの解決への糸口

一連のシリーズとして継続できれば、アメリカ社会の現在の様相をほぼ把握できるのではないかと思います。日本のあらゆるライフスタイルがアメリカナイズされている昨今、日本の将来を予想するてがかりともなることでしょう。日本とアメリカ両国の青少年問題を比較研究し、検討することで、お互いの問題解決の一助となれば幸いです。

健全な生活環境をめざして

§. 1 次のポスターは日本とアメリカの学校に貼ってあるものです。それぞれの絵から連想できる青少年の問題を考えてみましょう。

（日本） 山口県の西京高等学校のコモンホールに貼ってあるポスター



答 ()

▷考察1 日本では、他にどんな青少年問題があるか列挙してみましょう。

《アメリカ》 ノースカロライナ州のファームビル・ミドルスクールの教室入口に貼ってあるポスター



答 ()

▷考察2 アメリカでは、他にどんな青少年問題があると想像できますか。日本との共通点や相違点を整理しながら考えてみましょう。

(共通点)

(相違点)

§. 2 次のストーリーを読みながら、さまざまな問題を考えてみましょう。

森隆志君と斎藤典子さんは広島県の高校生2年生です。二人のクラスでは、『日本の若者、アメリカの若者』という題で、秋の文化祭にグループ発表をすることになりました。クラスの話合いで、アメリカの同世代が抱える悩みを中心に考えてみようという壮大な計画がもちあがりました。幸運にも、二人は夏休みに交換留学生としてアメリカにいくことになっています。級友たちは、二人に大きな期待を寄せて、いろいろなことを調べてきてほしいと頼みました。

隆志「みんなから、たいへんな宿題をもらったね。」

典子「そうね。私たちで調べられるかしら。」

隆志「アメリカの高校生も僕たちと同じように悩みをもっているのかな。」

典子「出発の前に、ALTのベル先生にアドバイスをお願いしてみたらどうかしら。」

隆志「それは名案だね。さっそく聞いてみよう。」

ベル先生は、アメリカの青少年の問題について、次のように語ってくれました。

アメリカの中学生や高校生も、日本の中学生や高校生と同じように、やはり、いろいろな悩みを持っているわ。学習や進路のこと、友人関係、それに恋愛についてもね。

悩みを克服できずに非行に走る若者がいるのも日本の場合と同じ。どこの国でも、若者は悩める存在なのね。

私の感じでは、アメリカの青少年は、日本の同年代の青少年より、少し大人っぽく見えます。それだけに非行問題も大人びた気がするわ。たとえば、ドラッグやセックスの問題、銃を使った凶悪犯罪など。

日本で今、一番の問題にされているのは、いじめのことでしょう。万引きとか無免許運転のうわさもときどき耳にするわ。アメリカの場合とは、少し質が違うわね。

私が気にかかるのは、日本の中学生や高校生の多くが、たばこを吸っていること。私は吸わないからよくわかるけれど、たばこの臭いのする生徒が、どのクラスにもいるわ。アメリカでは、青少年のみならず成人でも、確実に喫煙率が下がっています。アメリカ人の禁煙の取り組みについて調べてみれば、何か参考になるかもね。

隆志君、典子さん。帰国したら、調べてみて、感じたことを話してくださいね。



【ALTのベル先生】

ベル先生のアドバイスのおかげで、隆志君と典子さんはなんだか意欲が湧いてきました。それから、ベル先生は、ミネソタ州ミネアポリスに住むいとこのクリスティンを紹介してくれました。クリスティンもやはり高校2年生。二人の調査に協力するという快い返事が来ました。

8月上旬、隆志君と典子さんの旅はいよいよ始まりました。デトロイト経由でミネアボリスに着くと、空港にはクリスティンが迎えに来ていました。

クリスティン「はじめまして、隆志君、典子さん。ようこそミネアボリスへ。」

隆志「はじめまして。調査に協力してくれてありがとうございます。よろしくお願いします。」

典子「はじめまして、クリスティン。飛行機から見ると、ミネアボリスは整然とした、

きれいな町ですね。」

クリスティン「ええ、とても美しい町よ。明日から、さっそく案内するわ。」



【ミネアボリスのダウンタウン】

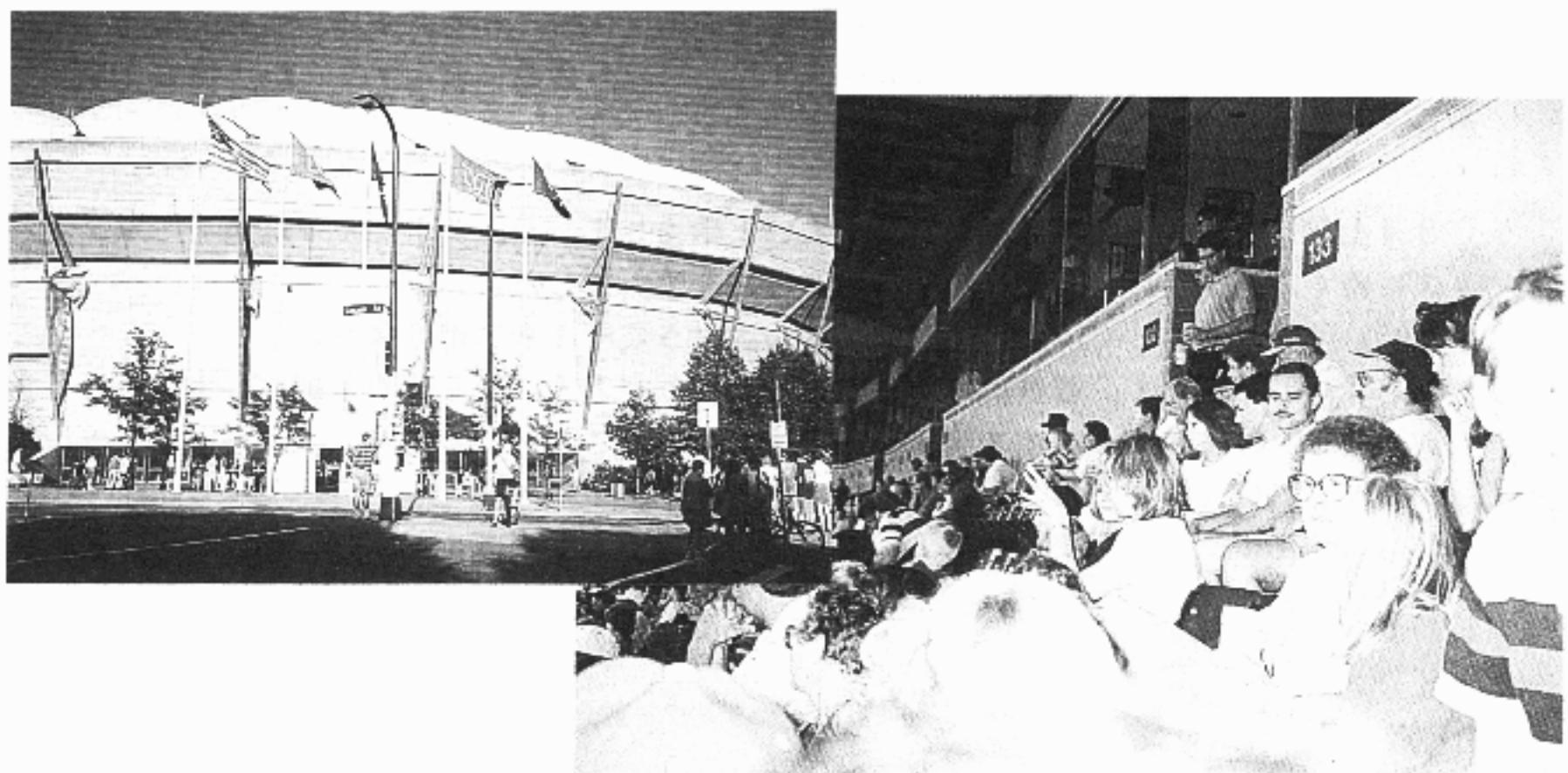
クリスティンは、翌日から二人をいろいろな所に連れていってくれました。湖のほとりの公園、ミネアボリス市役所、ダウンタウンの高層ビル、ミネソタ大学、ミシシッピー川など。なかでも隆志君が最も楽しみにしていたのはメトロドームでした。今年は、日本人の野茂がメジャーリーグで大活躍。野球が大好きな隆志君は、ぜひ一度、メジャーリーグの試合を見てみたいと思っていました。その夢がいよいよ実現したのです。

隆志「今夜の試合はミネソタ・ツインズ対オークランド・アスレチックスか。わくわくするな。」

典子「もう、隆志君たら。このメトロドームは、東京ドームのモデルなんですよ。」

クリスティン「その通り。日本の野球場と比べて、雰囲気はどう。」

【メトロドームと観客のようす】



クリスティンにそう言われて、二人はスタンドの観客のようすに目をやりました。すると、どうでしょう。ポップコーンやコーラを手に声援している姿は、日本と同じものの、たばこを吸っている人はまったく見当たりませんでした。

典子「メトロドームは禁煙なの。」

クリスティン「もちろんよ。メトロドームだけでなく、多くの人が集まる場所は、ほとんど禁煙よ。」

隆志「へえ、驚いたな。僕は広島カープのファンだから、広島市民球場によく行くけれど、多くの大人がたばこを吸っているよ。」

クリスティン「信じられない。子どもたちだって見にきているんじゃないの。成人すれば、たばこを吸うか吸わないかは個人の意志の選択だけれど、周囲の人の迷惑も考えないで吸うのは賛成できないわね。」

典子「日本でも、ずいぶん前から嫌煙権が叫ばれているけれども、駅の禁煙タイムでさえ、平気で吸っている人もいるわ。エチケットの問題かしら。」

隆志「日本人は喫煙の害についての意識が低いのかな。それにしても、アメリカ人のマナーの良さには感心だね。」

隆志君、典子さん、それにクリスティンの三人はメトロドームから帰る道すがら、次のようなことを具体的に調べてみようと話し合いました。同じ項目について日本でも調査すれば、なぜ日本人の喫煙率が高いのかがわかるような気がして、ファックスを日本に送り、級友たちにその結果をまた送りかえしてもらうことにしました。

- (1) 禁煙の表示のある場所
- (2) たばこの自動販売機の設置台数
- (3) たばこのコマーシャル
- (4) たばこのパッケージの警告文

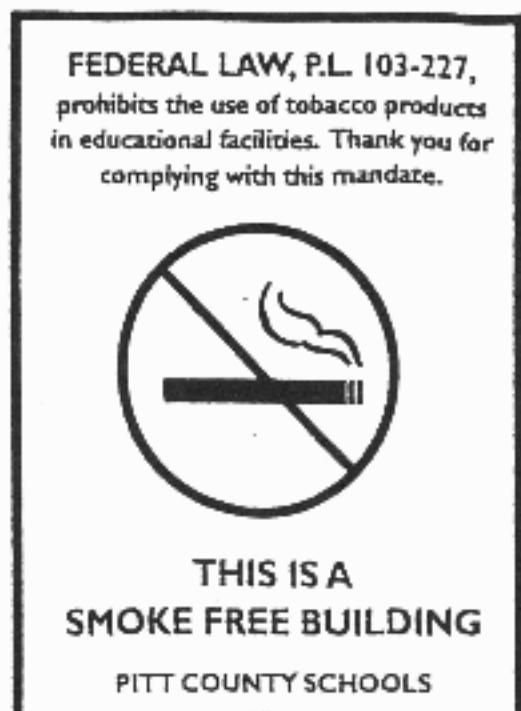
さて、調査開始。隆志君と典子さんはクリスティンの協力を得て、手際よく調査を実施しました。

(II) 禁煙の表示のある場所

三人は、人の多く集まる場所を中心に調べてみることにしました。市役所、学校、病院、デパート、ホテル、レストラン、空港、公園などを計画通り訪れましたが、やはり予想したように、どこに行っても禁煙の表示がしてありました。ミネアポリスにはアメリカ最大のショッピングセンター、モール・オブ・アメリカがあります。もちろん三人はそこでも禁煙の表示を見つけました。

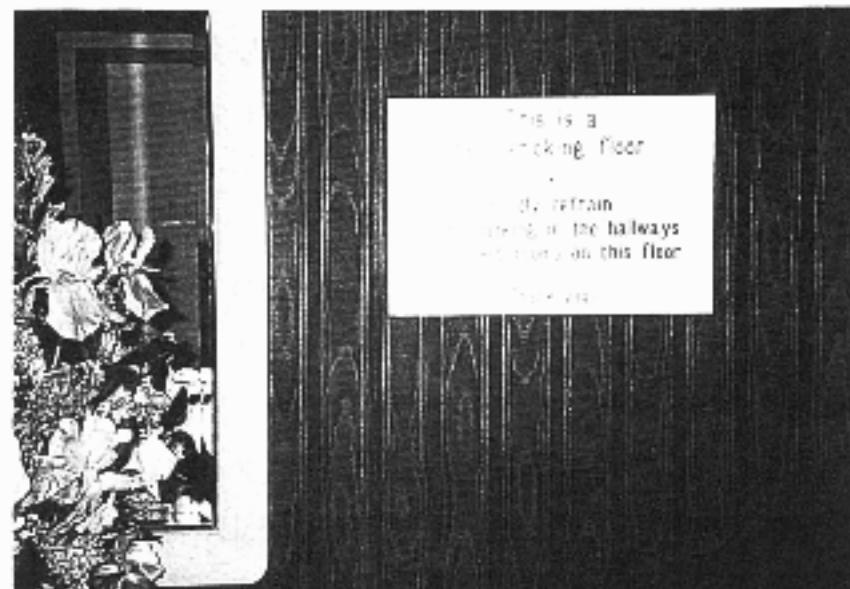
【学校の廊下の禁煙ポスター】

国の法律により教育施設内の喫煙が禁止されていると書かれています。



【ホテルの禁煙フロアの表示】

禁煙フロアなので、この階のホールや客室で喫煙を慎むよう指示しています。



【モール・オブ・アメリカの禁煙表示】

室内禁煙というミネソタ州の条例に従い、指定の場所以外での喫煙を禁じています。

【公園にある禁煙表示】



▷考察1 日本では、どんな場所に禁煙の表示があるか思い出してみましょう。

--

隆志「とにかく人の多く集まる場所は、屋内であろうと屋外であろうとみんな禁煙。とくに、公共の建物の中の空気を清浄に保つというミネソタ州の条例があるのにはびっくりしたね。」

クリスティン「ミネソタはアメリカのなかでも最も禁煙が徹底している州の一つだといわれているわ。」

典子「日本でも、最近は禁煙表示のある場所が多くなっています。たとえば、病院、いろいろな店の中、駅の禁煙タイム。それに国内線の飛行機内とか、新幹線にも禁煙車両があるわ。」

クリスティン「いいことね。そのうち効果が出るかもしれないわ。お父さんの話によれば、屋内で仕事をするホワイトカラーの人々は、ほとんどたばこを吸わないそうよ。たばこを吸う場所がないから、吸わないというより、吸えないのね。」

隆志「禁煙の表示といっしょに、建物の入口に必ず灰皿が置いてあることに気がついたんだ。ある意味では、中で吸わさないようにするために親切かもね。」

典子「法律や条例で定めるだけでなく、さまざまな工夫がされているのね。」

隆志君と典子さんは、ミネソタ州の禁煙の徹底ぶりに納得したり、感心したりの連続でしたが、何より禁煙表示のある場所で本当に誰もたばこを吸っていないのには、いささか驚きました。

(2) たばこの自動販売機の設置台数

今度は、たばこの自動販売機の設置状況を調べるために、簡単な実験を行いました。その実験とは「市街地を1時間歩いて、何台のたばこの自動販売機を見つけられるか」というものでした。隆志君と典子さんの住む広島市でも、同様の実験をするように級友の信夫君、大輔君、洋子さんに依頼していました。

隆志君、典子さん、クリスティンは、ミネアポリス自慢のスカイウェイを中心に、それぞれ別のルートを1時間ほど歩きました。「たぶん同じくらいだろう」と予想していたのですが、結果はこのようになりました。

（ 日本　：　広島市　）

信夫君	24 台
大輔君	28 台
洋子さん	23 台

《アメリカ：ミネアポリス》	隆志君	0 台
	典子さん	0 台
	クリスティン	0 台

隆志「たばこの自動販売機がまったくないとは予想していなかったよ。」
 ク里斯ティン「通りはいくらかがしてないわ。大人だけが出入りするバブとかには、自動販売機が置いてあるところもあるそうよ。」
 典子「じゃあ、たばこは中学生や高校生には簡単に手に入らないでいることよね。買えなければ、吸えないものね。」
 隆志「それはいえるね。日本の中学生や高校生の約3分の1が喫煙経験者だといわれているけど、たばこの入手経路は断然、自動販売機らしいよ。」
 典子「日本はたばこだけでなく、お酒や清涼飲料なども含めて、自動販売機が多くすぎるのよ。」
 隆志「実は、途中に一軒だけ、たばこを売っている小売店を見つけたんだ。勇気を出して、購入に挑戦したんだけれども、店員がIDカード（身分証明書）の提示を求めたんだ。まさか学生証を見せるわけにもいかず、あきらめたんだよ。」
 ク里斯ティン「やはり、簡単に手に入らないというのは、青少年には一番の効果が期待できるようね。」

▷考察2　たばこの購入方法についての日本とアメリカの違いをまとめてみましょう。

(3) たばこのコマーシャル

さあ、たばこのコマーシャルについてはどうでしょうか。三人は、知っているたばこの銘柄を言ってみることにしました。三人ともたばこを吸わないで、もし知っているのなら、それは無意識のうちに銘柄を覚えさせているコマーシャルのせいではないかと考えたのです。

クリスティン「私はたばこの銘柄なんて一つも知らないわ。」
 隆志「僕はたくさん知っているよ。日本のたばこだけでなく、アメリカから輸入されたたばこの名前だって、かなり知っているよ。ラーク、キャメル、セーラム、フィリップ・モーリス、マールボロ。それにラッキー・ストライクもあるよ。」
 ク里斯ティン「信じられない。アメリカのたばこの名前はどこで知ったの。。」
 隆志「テレビで、印象に残る、かっこいいコマーシャルをやっているからだよ。」
 典子「テレビの影響は何といっても大きいわね。宣伝ポスターもよく貼ってあるわ。」

▷考察3 あなたの知っているたばこの銘柄をできるだけたくさんあげてみましょう。

(日本のたばこ)

(アメリカのたばこ)

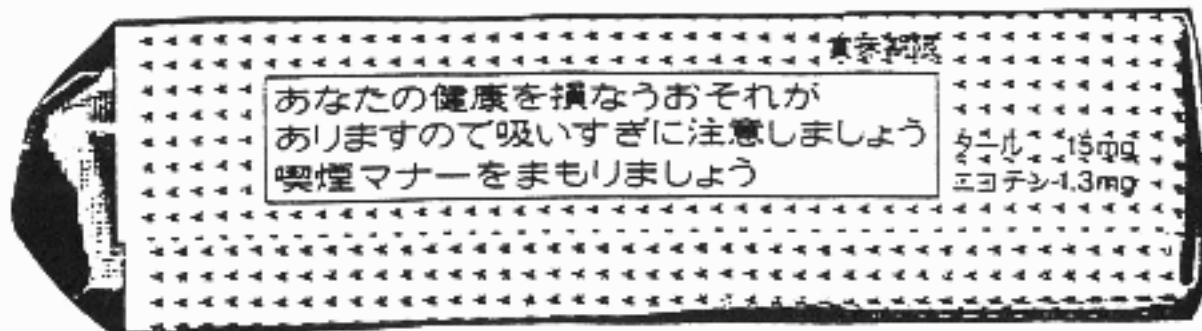
クリスティンの家で、テレビを見て確かめましたが、たばこのコマーシャルは、何時間経ってもとうとうありませんでした。街頭の宣伝ポスターも、日本のように簡単に見つかるというようなことはありませんでした。

後で調べてわかったことですが、アメリカでは、1971年以降、法律によってテレビ・ラジオでのたばこの広告が禁止されているそうです。他にも、イギリス・ドイツ・フランスなど主要な先進諸国では、たばこのコマーシャルは禁止されているとのことでした。先進国の中では、日本だけに、たばこの広告を禁止する法律がないようです。

(4) たばこのパッケージの警告文

三人は、最後にたばこのパッケージの警告文の比較を試みることにしました。日本のサンプルはいくつか用意してきたのですが、警告文はどれも同じものでした。アメリカのたばこの警告文は何種類かあるそうなので、クリスティンのお父さんに頼んで、違う種類のものを3つ買ってきてもらいました。

《日本のたばこのパッケージの警告文》



《アメリカのたばこのパッケージの警告文》

公衆衛生局長の警告

SURGEON GENERAL'S WARNING: Smoking Causes Lung Cancer, Heart Disease, Emphysema, And May Complicate Pregnancy.

(喫煙は、肺ガン・心臓病・肺気腫の原因となり、妊娠に支障を来たす可能性がある。)

SURGEON GENERAL'S WARNING: Quitting Smoking
Now Greatly Reduces Serious Risks to Your Health.

(今たばこをやめれば、あなたの健康への深刻な危険性が非常に減少する。)

SURGEON GENERAL'S WARNING: Smoking By
Pregnant Women May Result in Fetal Injury,
Premature Birth, And Low Birth Weight.

(妊婦による喫煙は、先天性異常・早産・未熟児出産の原因となる可能性がある。)

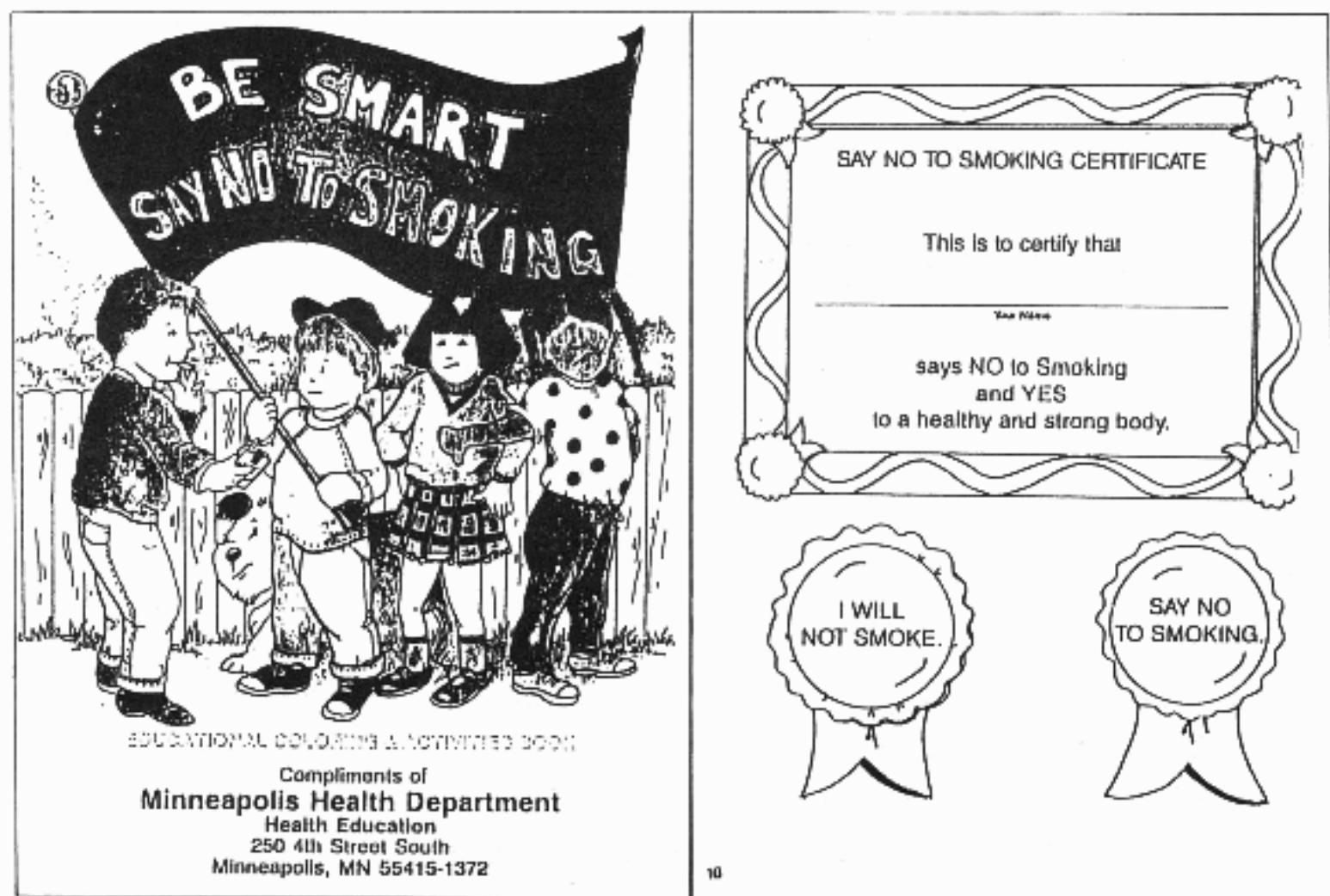
▷考察4 日本のたばことアメリカのたばこのパッケージの警告文を見て、その内容の違いにあなたはどういう印象を持ちましたか。

- クリスティン「日本たばこの警告文は、なんだか表現があいまいで、警告になっていないような気がするわ。それが日本流なのかしら。」
- 典子「そうね。日本語は婉曲的な言いまわしが多いから。」
- 隆志「逆に、アメリカの警告文は、たばこが身体へ害を及ぼすことがはっきり書いてあるね。表現が具体的で、わかりやすいよ。」
- クリスティン「肺ガンとか心臓病とかは、死につながるものだから、怖い感じだわ。」
- 典子「喫煙が妊婦に及ぼす影響も書いてあって、女性としては、やはり敬遠したくなるものね。」
- クリスティン「アメリカでは、これらの警告文をたばこのパッケージに記すことが、法律で定められているのよ。」
- 隆志「たばこのテレビコマーシャル禁止と同じように、何でも法律で決めれば効果があるのかな。」
- 典子「私はそうは思わないわ。確かに、一定の効果は望めるけど、それだけじゃダメよ。もし、法律がすべてなら、ドラッグ乱用や銃の悪用なんか絶対起こらないはずよ。健康を守るために個人個人のポリシーが一番大切だと思うわ。」

アメリカで喫煙率が下がった理由は、ドラッグや銃の例から考えてみても、法律や条例のおかげだけとは言い難いようです。たばこの自動販売機の設置状況、コマーシャル、さらにパッケージの警告文など、法律や条例に関連することを中心に調べてきた三人は、それ以外の要素についても考えてみました。

そんなおりに、たまたま、クリスティンの弟のトーマスが三人の興味を引くような本を持っていました。小学校の教材らしく、内容は禁煙についてのものでした。低学年の小学生でも理解できるような簡単な英語で書かれており、ぬりえやパズルなど楽しく学べるよう工夫がされていました。

【小学校で利用されている禁煙教育の教材の一つ】



隆志「小学校でもう禁煙について勉強しているの。」

トーマス「そうだよ。たばこは、からだによくないから、僕は大人になっても絶対吸わないつもりだよ。」

典子「学校の禁煙教育、保健所や健康センターなどの啓蒙活動も重要なポイントね。」

クリスティン「典子さん、おじさんのいるノースカロライナで、もう少し調べてみたら。」

典子「そうしてみると、いろいろとお世話になって、ありがとう。」

隆志「元気でね。クリスティン、トーマス、いつか日本にも来てくださいね。」

隆志君と典子さんは、たくさんの調査結果を手にして、ミネアポリスを後にしました。そして、典子さんのおじさんの待つノースカロライナへと向かいました。

《アメリカ：ミネアポリス》	隆志君	0 台
	典子さん	0 台
	クリスティン	0 台

隆志「たばこの自動販売機がまったくないとは予想していなかったよ。」

クリスティン「通りはいくらかがしてないわ。大人だけが出入りするパブとかには、自動販売機が置いてあるところもあるそうよ。」

典子「じゃあ、たばこは中学生や高校生には簡単に手に入らないでいることよね。買えなければ、吸えないものね。」

隆志「それはいえるね。日本の中学生や高校生の約3分の1が喫煙経験者だといわれているけど、たばこの入手経路は断然、自動販売機らしいよ。」

典子「日本はたばこだけでなく、お酒や清涼飲料なども含めて、自動販売機が多くなるよ。」

隆志「実は、途中に一軒だけ、たばこを売っている小売店を見つけたんだ。勇気を出して、購入に挑戦したんだけれども、店員がIDカード（身分証明書）の提示を求めたんだ。まさか学生証を見せるわけにもいかず、あきらめたんだよ。」

クリスティン「やはり、簡単に手に入らないというのは、青少年には一番の効果が期待できるようね。」

▷考察2　たばこの購入方法についての日本とアメリカの違いをまとめてみましょう。

(3) たばこのコマーシャル

さあ、たばこのコマーシャルについてはどうでしょうか。三人は、知っているたばこの銘柄を言ってみることにしました。三人ともたばこを吸わないで、もし知っているのなら、それは無意識のうちに銘柄を覚えさせているコマーシャルのせいではないかと考えたのです。

クリスティン「私はたばこの銘柄なんて一つも知らないわ。」

隆志「僕はたくさん知っているよ。日本のたばこだけでなく、アメリカから輸入されたたばこの名前だって、かなり知っているよ。ラーク、キャメル、セーラム、フィリップ・モーリス、マールポロ。それにラッキー・ストライクもあるよ。」

クリスティン「信じられない。アメリカのたばこの名前はどこで知ったの。。」

隆志「テレビで、印象に残る、かっこいいコマーシャルをやっているからだよ。」

典子「テレビの影響は何といっても大きいわね。宣伝ポスターもよく貼ってあるわ。」

▷考察3 あなたの知っているたばこの銘柄をできるだけたくさんあげてみましょう。

(日本のたばこ)

(アメリカのたばこ)

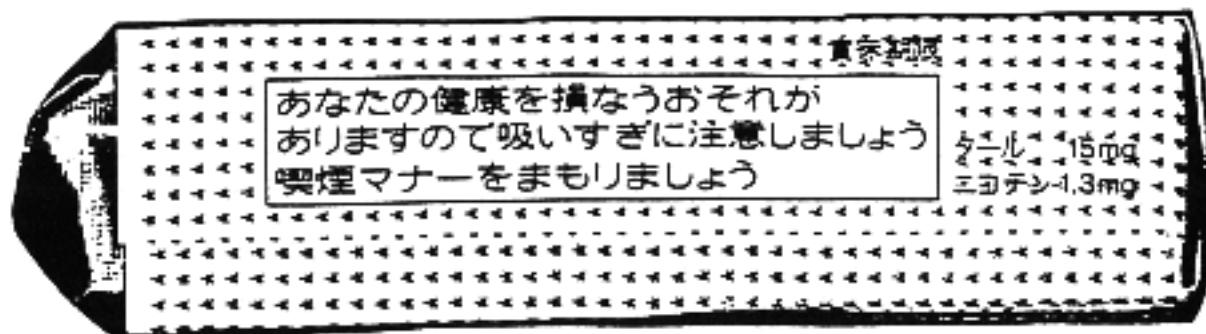
クリスティンの家で、テレビを見て確かめましたが、たばこのコマーシャルは、何時間経ってもとうとうありませんでした。街頭の宣伝ポスターも、日本のように簡単に見つかるというようなことはありませんでした。

後で調べてわかったことです、アメリカでは、1971年以降、法律によってテレビ・ラジオでのたばこの広告が禁止されているそうです。他にも、イギリス・ドイツ・フランスなど主要な先進諸国では、たばこのコマーシャルは禁止されているとのことでした。先進国の中では、日本だけに、たばこの広告を禁止する法律がないようです。

(4) たばこのパッケージの警告文

三人は、最後にたばこのパッケージの警告文の比較を試みることにしました。日本のサンプルはいくつか用意してきたのですが、警告文はどれも同じものでした。アメリカのたばこの警告文は何種類かあるそうなので、クリスティンのお父さんに頼んで、違う種類のものを3つ買ってもらいました。

《日本のたばこのパッケージの警告文》



《アメリカのたばこのパッケージの警告文》

公衆衛生局長の警告

SURGEON GENERAL'S WARNING: Smoking Causes Lung Cancer, Heart Disease, Emphysema, And May Complicate Pregnancy.

(喫煙は、肺ガン・心臓病・肺気腫の原因となり、妊娠に支障を来たす可能性がある。)

▷考察5 このような啓蒙パンフレットが人々の手に渡ることで、どのような効果があるか考えてみましょう。



隆志「学校で、このような啓蒙パンフレットが配られたりするの。」

アーチー「よくあることだよ。街頭で職員の人が配布したりするし、公共の場では、自由に取れるようになっているので、簡単に手に入るよ。」

典子「これらを見れば、たばこやドラッグの害、エイズの恐ろしさなどが、すぐにわかるわ。正しい知識を身につけることが、大切じゃないかしら。」

隆志「そうだね。法律や条例に頼るだけではなく、正しい知識が自分の身を守ることになるんだね。」

日本でも最近では、エイズ予防のパンフレットやいじめ防止を訴えるリーフレットが配布されている事実を思い出して、これからもこうした地道な啓蒙活動が続けられればと二人は思いました。

(2) 青少年の余暇の過ごし方

隆志君と典子さんは、アメリカの青少年が余暇を、具体的には放課後や休日、長期休業中をどのように過ごしているのかということがずっと気になっていました。学校の就業時間以外の時間を有効に使うことが、青少年の非行防止には大きな要素だと考えていたからです。ボイス・アンド・ガールズ・クラブの存在を知って、さっそく行ってみました。

隆志「ボイス・アンド・ガールズ・クラブって、何か楽しそうなところだね。」

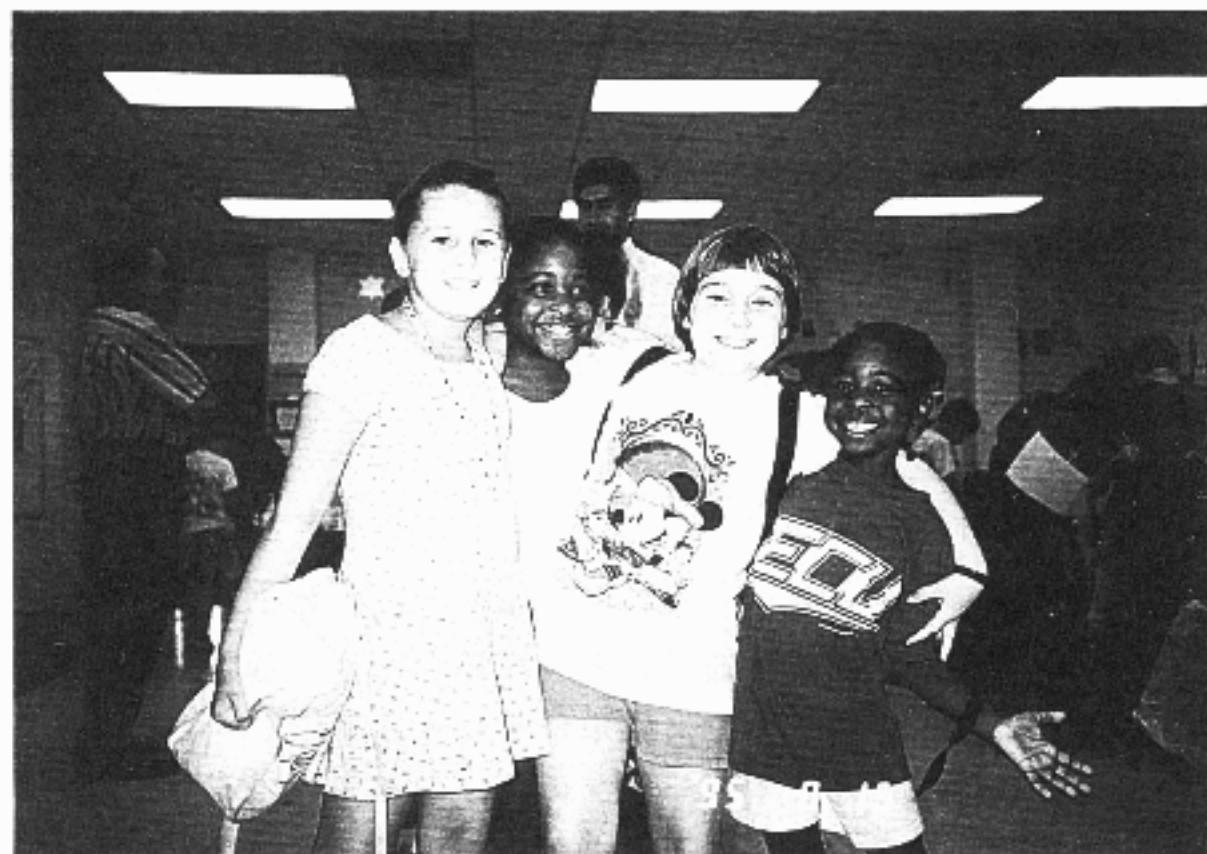
アーチー「各種スポーツ、音楽、クラフト、コンピューターなど、個人の選択によって、好きなことができるんだ。放課後や夏休みには、たくさんの子どもが利用しているよ。日本にも、同じようなものがあるの。」

典子「いいえ、日本はないわ。日本では、学校のクラブ活動が盛んなの。」

隆志「クラブ活動に熱中している生徒は、それぞれ目標があって、連帯感も持てるからね。ところが、そうでない生徒は、目的意識が希薄になりやすい。時間をもて余すことが、非行に走る一つの要因とも思えるね。」

アーチー「ここは行政の補助もあって、年間35ドルの会費だけしかからないのも魅力的だね。アメリカの場合、両親とも働いているケースや、離婚を原因とした片親不在のケースも多いので、ここは親の役割も担っているといえるんだ。」

典子「クラブの存在が、非行防止に一役かっているというわけね。」



【グリーンビルのボイス・アンド・ガールズ・クラブの子どもたち】

▷考察6 日本の青少年がクラブ活動以外に、余暇をどんなことに使っているか考えてみなさい。

(3) 青少年の健全育成のための教育プログラムとメンタルヘルス

まず最初に、ピット郡教育事務所を訪れた三人は、職員の人からピット郡の教育システムや学校の概要などについて説明を受けました。そして、中学生や高校生の問題行動に話が及ぶと、ピット郡の学校の校則集を一冊もらいました。飲酒、喫煙、暴力、性非行、ドラッグ、ポイコットなど具体的な項目について、細かに規定してあって、日本の学校の校則よりも、むしろきびしいといったイメージを受けました。停学や退学を含む罰則規定もあって、回数や内容に応じての対処が明示していました。隆志君と典子さんがこれまで調べてきた、たばこの項目についてのルールについてはこう書いてあります。

**Rule 12:
Tobacco**

No student shall smoke, chew, dip or otherwise consume, use or possess any tobacco products in any school building, or on any school or activity bus, or at any school-related activity on school grounds during regular school hours. This policy does not apply to extracurricular activities outside the regular school instructional day for students who are of legal age for purchase of tobacco products.

(生徒は、学校の就業時間に、どの校舎内でも、スクールバスの中でも、あるいはグラウンドにおけるいかなる活動の場でも、たばこを吸ったり、喫んだり、また使用、所有してはいけないという内容である。) 下線部のみ

隆志君と典子さんは、さらに青少年の健全育成のための教育プログラムについて教えてもらいました。なかでもピット郡が力を入れているのが、健全な学校作りのためのプログラム S R O と青少年の非行防止のためのプログラム P. O. R. T. でした。

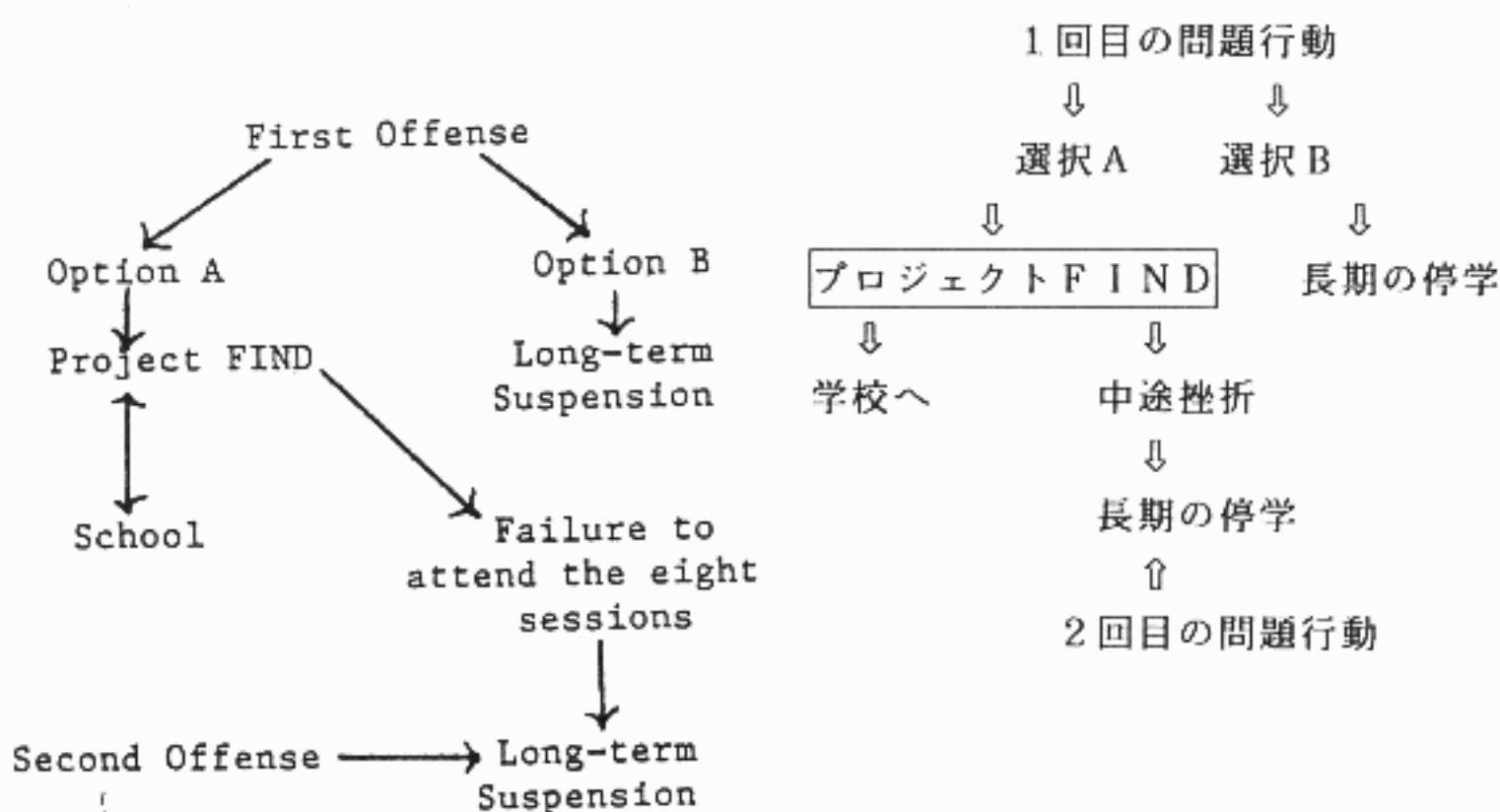
プログラム S R O (スクール・リソース・オフィサー) は、ピット郡の各学校とカウンセラー、および警察を結びつけて、学校の治安と非行防止を図る事業だそうです。制服警官が学校を巡回するなんて日本の学校では考えられず、二人は何だか恐くなりました。だが、71%の学校が、S R O により大きな影響を受けたと評価しているように、学校の治安の面を考慮すれば、効果は大きいようです。

しかし、それよりも隆志君と典子さんが注目したのは、プログラム P. O. R. T. (プロバイディング・オポチュニティーズ・フォー・リカバリング・ティーンズ) でした。なかでもプロジェクト F I N D (ファミリーズ・イン・デベロップメント) というものです。ピット郡の教育事務所とメンタルヘルスセンターの協力で、問題行動を起こした中学生や高校生と保護者に、非行の再発防止のための指導が行われるのです。

このプログラムでは、生徒と保護者は二者択一の選択ができるようになっています。もし生徒と保護者がプログラム F I N D を受けければ、一回目の問題行動の場合、停学処分を免除されます。けれども、このプログラムを受けることを希望しない場合、校長は即座に長期の停学処分を科すことができます。なお、このプログラムにかかる費用は、その一切を教育委員会が負担することになっているため、受講者は無料で参加できます。

【プロジェクト F I N D の選択システム】

PROCEDURES



PITT COUNTY SCHOOLS

and

PITT COUNTY MENTAL HEALTH CENTER'S
Adolescent Substance Abuse Program

Project F I N D
(Families in Development)



【プロジェクトFINDの8つの講習】

1. イントロダクション

2. グループ作り

3. 自己評価

4. 薬物学（ドラッグ乱用防止教育）

5. 意志決定力の強化

6. コミュニケーションの形

7. 連帯感の育成

8. 復習と評価

隆志「プロジェクトFINDは、再び非行を起こさないための有効な手段だね。」

アーチー「そうだね。問題行動そのものを罰することで反省させるのではなく、二度と起こさないための精神を培うことに焦点が置かれているんだ。」

典子「心の教育ということかな。」

アーチー「その通り。アメリカでは、最近、カウンセリングとかメンタルヘルスということが注目されているんだよ。」

隆志「日本でも、各学校に教育相談室が設置されているね。」

典子「私たちは困ったことや悩みごとがあったら、いつでも教育相談室を訪ねができるの。話をじっくり聞いてもらえて、アドバイスもしてもらえるから、とても安心できるわ。」

アーチー「アメリカの学生も、日本の学生も、きっとストレスが多いんだよ。ストレスに負けて、非行につながるケースもあるからね。」

▷考察7 あなたは学校や家庭でさまざまな悩みが生じたとき、誰に、またはどこに相談していますか。

これまでしてきた調査の最後に、隆志君と典子さん、それにアーチーの三人は、もうすぐ新学期の始まるファームビル・ミドル・スクールを訪ね、青少年の非行に詳しいワーレン先生に、調べてきたことを話してみました。ワーレン先生は、青少年の喫煙問題に端を発し、アメリカの青少年問題を、まるでまとめるかのように語ってくれました。



【ワーレン先生】

日本の学校と同じように、アメリカでも禁煙教育はあります。内容は、喫煙の及ぼす身体への影響が中心で、小学校からもう教えます。中学校や高校では、居残りや停学など違反者に対する罰則規定もあります。でも、これらは日本における場合とあまり変わりがありません。

違うとすれば、アメリカでは禁煙教育よりもむしろ、禁煙運動の結果として喫煙が減少したということです。たばこの自動販売機の撤去をはじめ、テレビ・ラ

ジオでのコマーシャル禁止、さらに禁煙区域の拡大など具体的な施策は、すべて市民運動が勝ち取ったものだといえるでしょう。

子どもは大人の姿勢に敏感なものです。喫煙は本質的には個人の問題ですが、人が平気でたばこを吸っているような環境では、子どもの手本にはなれません。アメリカでは、大人の世界でも、セルフコントロールの面から喫煙と肥満は大敵とされているのです。それが、青少年の喫煙率が低い理由だと思います。

ドラッグやセックスを中心とする青少年問題の解決の方向性としても、大人のモラルや努力が必要です。青少年の健全育成のために、喫煙問題で成果をあげているのと同様に、正しい知識を授ける教育、キャンペーンが求められます。それと、道をそれかけている青少年を救うカウンセリングが何よりも大切なのです。

この旅は、隆志君と典子さんにとって、ただの観光旅行よりはずっと貴重な体験となりました。国は違っても、自分たちと同じくらいの年齢の青少年が、どんなことで悩んでいるかがよく理解でき、さらに解決のためにみんながどのような努力をしているかを知ることができたからです。そして、日米両国の学生たちが、もしあ互いの良いところを謙虚に認め合い、実行できるならば、必ず自分たちの生活を改善できるのではないかと思いました。

現代の日本のライフスタイルの多くの部分が、アメリカの影響をおおいに受けているといっても過言ではないでしょう。いろいろなことがアメリカナイズされている日本で、アメリカの青少年が今抱えている問題を対岸の火事とみなすことはけっしてできません。良いことは良い、悪いことは悪いという信念が大切だと二人は痛感しました。

すてきな文化祭のグループ研究が出来上がりそうです。

§3 これまで学んだことを整理してみましょう。内容が正しいものにはT、正しくないものにはFと書いてみてください。

- (1) 日本の男性は、世界的にみて、喫煙率が非常に高い。 []
- (2) アメリカには、日本と同じように通りにたばこの自動販売機がたくさんある。 []
- (3) アメリカでは、たばこのコマーシャルをテレビで放映することが、法律で禁止されている。 []
- (4) アメリカのたばこは、「喫煙は肺ガン・心臓病・肺気腫の原因となる」などの警告文を記すことが義務づけられている。 []
- (5) アメリカでは、公共の建物の中は基本的に禁煙を強要できない。 []
- (6) アメリカでは、青少年の喫煙率が減少している。 []
- (7) 非行防止のためには、正しい知識を持たせてくれる啓蒙活動が有効である。 []
- (8) アメリカの青少年にとって、喫煙よりも、ドラッグや暴力のほうが深刻な問題である。 []
- (9) アメリカでは、青少年の健全育成のためのさまざまなプログラムが用意されている。 []
- (10) 日本の教育機関では、まだカウンセリングは導入されていない。 []

§4 A：たばこを吸うことを勧める役と、その誘いを断わる役に分かれて討論してみましょう。

B：いじめの問題を例に取って、その解決法を話し合ってみましょう。